

■細川勝元 武将。幕府内の勢力を畠山氏と二分、山名宗全の登場で複雑化、<応仁の乱>に至り、戦い半ばで病没。
ほそかわかつもと
尚氏王統確立1430＝ 生。細川持之の子。

永享の乱終・1439＝ 9歳：

嘉吉の乱・ 1441＝11歳：
・ 1442＝12歳： 父持之が没したため京兆家を継ぎ、幼將軍義勝の偏諱を受けて勝元と称し、摂津・丹波・讃岐・土佐4カ国守護となる。当時、細川氏は一族で9カ国守護であったが、山名氏も嘉吉の乱の功で赤松氏の分国を併合して8カ国守護になったいた。

対馬嘉吉条約1443＝13歳： 山名宗全(持豊)の娘を迎えて女婿となり、畠山氏の内訌に宗全とともに政長を支援し、義就に対抗させ、
・ 1445＝15歳： *畠山持国にかわって、幕府管領となる。

・ 1448＝18歳：
足利義政將軍1449＝19歳： 將軍足利義政の初め、畠山持国の勢力が強く、管領を奪われ、
平素妙心寺の義天玄承・雪江宗深に参禅し、
・ 1450＝20歳： 宗深を住持に京都竜安寺を創建。

・ 1452＝22歳： *再び、管領となる。
・ 1453＝23歳： 伊予守護職などの補任を命じる。
享徳の乱始・1454＝24歳： 將軍義政が赤松家再興に反対した宗全を迫討しようとする、東山五山堂に籠って、義政を諫めるなど、当初は宗全との協力態勢により勢力の維持、拡張を図った。やがて勝元は山名氏のより以上の強大化を防ぐ措置を講ずるようになり、
古河公方始・1455＝25歳： 持国の死後は互いに反目を深めた。
道灌江戸城始1457＝27歳：
・ 1458＝28歳： この対立は赤松家再興問題で一挙に表面化し、両者の関係はさらに悪化した。ちょうど畠山、斯波の両管領家をはじめとする諸国の守護大名家において家督をめぐる争いが激化しはじめた時期でもあった。畠山家では持国の死後、養嗣子の政長と実子義就との争いが生じていた。一方、斯波家でも義健の没後、養嗣子義敏と家臣甲斐常治ら重臣とが対立して義敏は家督を退けられ、代わって渋川義鏡の子義廉が斯波家を継ぐと、両者の間で相続争いが生じた。
・ 1460＝30歳： 讃岐一ノ宮辺神社に禁令を出す。
寛正大飢饉終1462＝32歳： 興福寺の池田充正の代官就任を迫る。
・ 1464＝34歳： 管領を解かれる。
・ 1465＝35歳： 將軍義政は日野富子との間に義尚が誕生すると、還俗させた弟義視との家督継承の約束を反故としたため、義視と義尚とに家督争いが生じ、それぞれが山名宗全、細川勝元を頼り、前述の畠山、斯波両家の争いもこの両派の対立に結びついていき、応仁・文明の乱勃発の原因となった。
・ 1466＝36歳： 実子政元が誕生したため、養子豊久(宗全の末子)を追放。貞親が義政の弟義視の排斥と義政の実子義尚の家督実現を策動すると、勝元は宗全以下の諸大名とともに貞親放逐を義政に強請し、これを実現させた。一挙に権勢強化をもくろんだ宗全は、
応仁の乱始・1467＝37歳： *義政に迫って管領畠山政長を出仕停止とし、斯波義廉を管領にした。そこで勝元は与党諸将の軍を京都に召集して戦備を整え、宗全もまた対抗して自党の軍を上洛させた。勝元方は幕府を占拠して義政を擁し、山名方を攻撃、山名方もただちに反撃し、ここに応仁の大乱が勃発した。勝元を総大将とする東軍は細川一族・斯波義敏・畠山政長・京極持清・富樫政親・武田信賢・赤松政則・山名是豊ら、宗全を主将とする西軍は山名一族の大半と斯波義廉・畠山義就・同義統・六角高頼・一色義直・土岐成頼・大内政弘・河野通春らの守護大名を主力とし、両軍大名の分国は中部以西の本州・四国・九州北部をおおった。勝元は山名追討の軍旗を義政から申し受けたが、戦況はほぼ互角であった。
・ 1468＝38歳： 義政が貞親を再び政所執事になると義視は西軍に入った。やがて争乱は地方に拡大し、国人層の台頭が顕著となり、京都の戦闘は沈滞。_3度目の管領となる。
・ 1472＝42歳： また医術を研究し、医書「霊蘭集」を著した。
足利義政隠居1473＝43歳： *戦闘が膠着状態に陥り勝敗がまだ決しない中、義父宗全の死後まもなく、病没した。